

土木学会海外支部・タイ分会設立

松田光弘（正会員 土木学会事務局）

日本とタイの外交の歴史は古く、1887年に日タイ修好宣言が調印されてから昨年で120年になる。土木の分野でも、アジア工科大学への人的協力や、ODAによる援助など、日本はタイの発展に対して貢献してきた。

2008年1月18日の第5回理事會において、土木学会海外支部タイ分会の設立が承認され、台湾（2000年）、韓国（2000年）、英国（2001年）、モンゴル（2005年）、トルコ（2007年）、インドネシア（2007年）に続く、7番目の海外分会となった。

分会設立を祝して、3月14日にバンコクで記念式典が開催され、石井会長をはじめ、分会設立に尽力した会長提言特別委員会・アジアへの貢献部会のメンバーを中心に7名が参列した（写真1）。

石井会長は、祝辞のなかで、社会・自然環境の変化に伴い土木技

術者の国際貢献の責任が大きくなっていることに触れ、それに対する土木学会の活動方針、分会設立の意義を述べ、今後の分会の発展に助力を惜しまないと述べた。

国会議員でもあるDr. Samart Ratchapolsite 分会長は、タイと日本を結びつける分会の活動への強い決意を表明した。続いて、宮本和明・武蔵工業大学教授（会長特別委員会・アジアへの貢献部会長）、Dr. Rungsun Udonsuri-ta イ分会副分会長（チェンマイ大学）からも挨拶があった。最後に、タイ分会設立に尽力した福田敦・日本大学教授（会長特別委員会・アジアへの貢献部会）が進行役となり、今後の分会活動方針や土木学会本部への要望について活発な議論がなされた。

分会設立式に先立ち、3月13日には、土木学会と協力協定を結んでいるタイ工学会との共催で、「ア

ジアにおける土木技術者教育の現状と将来」をテーマとしてジョイントセミナーを開催した（写真2）。

石井会長、およびタイ工学会 Mr. Prasong Tharachai 会長の基調講演に引き続き、土木学会とタイ工学会あわせて6名が、技術者教育認定や技術者認定資格などに関し、日本、タイ、フィリピンの事例についてプレゼンテーションを行った。

このほか、地方道路局、陸上運輸局、交通政策局の局長を表彰訪問し、インフラの現状と課題について意見交換を行った（写真3）。

今回分会を設立したタイを含め、アジア諸国に対する日本の高い技術力による貢献策については、会長提言特別委員会・アジアへの貢献部会によりまとめられる予定である。



写真2
土木学会—タイ工学会
ジョイントセミナーにて



写真1
タイ分会設立記念式
典にて



写真5 Dr. Maitree交通政策局長との意見交換



写真4 Mr. Silpachai陸上運輸局長との意見交換



写真3 Mr. Rapin地方道路局長との意見交換